

# 監修の序

エビデンスに基づいた心不全治療薬が次々と報告され、非薬物療法の進歩も著しい現代において、心不全は「助かる病気」「付き合っていく病気」へと変わりつつあります。一方で、心不全患者の高齢化やフレイル化に伴い、個々の症例にどのように治療を組み立てるかという判断は、ますます困難になっています。今の時代、「心不全を診る」と一口に言っても、その奥深さは計り知れません。

これまで心不全診療は主に急性期病院の循環器内科医が担ってきましたが、今やすべての医師が心不全に向き合うことが求められる時代となりました。そうした背景のなかで、本書は心不全診療の入門書として、まさに最適な一冊と言えるでしょう。

本書は、うし先生が後輩の先生と語り合いながら解説する形式で構成されており、読みやすさと実践的な視点が魅力です。その一方で、「目の前の患者さんと真摯に向き合う」という、うし先生の心不全診療に対する姿勢が随所に溢れています。

循環器内科医は、ともすれば不整脈・心不全・虚血性心疾患といった“疾患”に向き合うことに偏りがちですが、実際の臨床現場では、患者さんは決して単純ではなく、社会的背景や多くの併存疾患など、解決すべき課題が山積しています。症例を重ねることで、教科書だけでは得られない貴重な経験が培われていきます。

これから循環器をローテートする研修医、循環器内科の研修をはじめる専攻医、さらには循環器をより深く学びたいジェネラリストや実地医家の皆様に、ぜひ手にとっていただきたい一冊です。

本書に監修という形でかかわらせていただいたことを大変光栄に思うとともに、本書の制作にかかわられたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

2025年8月

聖隸浜松病院循環器科  
齋藤秀輝